

平成29年度

阿木 第2分団



た か ら た ん け ん



お宝探検

ウォーキング



平成29年11月11日

主催：青少年健全育成市民会議阿木支部

※小学生が阿木のお宝（史跡）をめぐる三世代交流のイベントです。

協力

2分団の皆さん、阿木地区老人クラブ連合会、阿木あんきスポーツ倶楽部、阿木歴史教室、阿木区長会、阿木保育園、阿木小学校、阿木中学校、保育園保護者会、小・中学校PTA、阿木高等学校、阿木体育協会、阿木更生保護女性会、社会福祉協議会阿木支部、阿木地区民生委員・児童委員協議会、村づくり塾、地域安全指導員、消防団阿木分団、阿木城跡保存会、阿木公民館

# 目次

- 1 したひろおかとろうろう  
下広岡燈籠
- 2 わかみやじんじゅ  
若宮神社
- 3 さんじゅうさんかんのん  
三十三観音
- 4 ひろおかこうみんかん  
広岡公民館
- 5 ひろおかはちまんじんじゅ  
広岡八幡神社
- 6 どうそじん みち  
道祖神(道しるべ)
- 7 かななみさま  
刀神様
- 8 きさきけ せんぞ まつ  
佐々木家の先祖を祭るお堂
- 9 てんばくさんやま かみじんじゅ  
天爆山の神神社

- 16 しょうぼう  
消防コミュニティー
- 17 ひろおかぶんこうあと  
広岡分校跡
- 18 おおのごりんとろうくん  
大野五輪塔群
- 19 ぎょうじゃさま  
行者様
- 20 さいがいふつきゅうきねん ひ  
災害復旧記念碑
- 21 きたがわ こうぼうさま しちふくじん  
北側クラブの弘法様と七福神

- 22 ばとうかんのん  
馬頭観音
- 23 ちきみょうじん  
主岐明神
- 24 びょうびいわ  
屏風岩
- 25 かみづか  
髪塚
- 26 ちあらい いけ  
血洗の池
- 27 ちあらい じんじゅ  
血洗神社
- 28 やましじんじゅりゅうせんじゅあと  
山祇神社龍泉寺跡
- 29 りゅうせんじゅ かいどういりぐち  
龍泉寺街道入口
- 30 かごだい  
駕籠台
- 31 いっしんぎょうじゅ  
一心行者
- 32 まきの とうろう かさ  
牧野の灯籠の傘
- 33 ひろおかのうさんぶつか こう  
広岡農産物加工センター

※この「お宝探検ウォーキング・阿木2分団史跡資料集」で紹介しているのは一部の史跡です。  
 この他にも様々な史跡があります。

# 【阿木2分団】史跡などの紹介



## 1 しもひろおかとうろう 下広岡灯籠

江戸時代の安政6年に、風神神社の道しるべとして、たてられ、灯籠の正面には風神常夜燈、右には恵那大権現、左に稲荷大明神とほられているのがわかります。

また灯籠の下には馬頭観音（道路や旅の安全を守る仏様）が2体置かれており、右側のものには山道、左側のものには中津と記されています。



## 2 わかみやじんじゃ 若宮神社

広岡の古文書によると、元亀元年から3年間に渡る大雨により、山崩れなどの災害にあい、住民は若宮神社に避難し生活したと書かれています。

昔の記録には熊野神社と書かれていましたが、その後お祀りしてある神様が仁徳天皇であることがわかり、若宮神社と呼ばれるようになりました。



## 3 さんじゅうさんかんのん 三十三観音

西国三十三観音巡りといって、西国にある33箇所のお寺を回り、お参りする風習がありますが、西国は遠いので、わざわざ西国まで出かけなくてもお参り出来るようにと作られたのがこれらの石仏です。

また寛延3年(1750年)に作られた6体のお地藏様が彫られている石灯籠(六面石灯地藏)もあり、この地域の六地藏という地名の由来となっています。



## 4 ひろおかこうみんかん 広岡公民館

広岡地区の組の寄り合い、歌や踊りの練習など様々な目的で使用されている。防災備蓄倉庫もあり広岡地域の中心地である。昔は広岡舞台のあった場所で、現在の施設でも小さな舞台が設置されている。クラブではなく公民館としているのは広岡村であった名残である。



## 5 ひろおかはちまんじんじゃ 広岡八幡神社

ひろおかむら ちんじゆさま とち まも がみ おおのはちまんじんじゃ  
 広岡村の鎮守様（土地の守り神）として大野八幡神社か  
 ほむだわけのみこと おうじんてんのう ぶんれい かみさま ぶんしん も  
 ら譽田別命（応神天皇）を分霊（神様の分身を持ってくる  
 こと）したのが始まりで、ここを通称「新森」と呼んでいま  
 す。

あわ しんめいじんじゃ こんびらじんじゃ かみさま まつ ほん  
 併せて神明神社と金比羅神社の神様も祀られており、本  
 殿横の石の社が金比羅様です。



## 6 どうそじん みち 道祖神(道しるべ)

せゆうおおのむら ひろおかむら むらさかい まえ せゆうしたい しゆうどう  
 旧大野村と広岡村の村境にある。前は旧時代の主要道  
 ろ おおのはちまん せゆういとうけ わき とお にしおけ  
 路で、大野八幡そばから旧伊藤家の脇を通り、西尾家  
 まえ ささきけまえとお むらさかい つ げん ひろおかはちまん  
 前、佐々木家前を通過して村境に着く。現、広岡八幡か  
 まきぎ いみち こうさ そこ きゆうどう  
 ら牧野へ行く道と交差するところが其処である。旧道  
 おおの ま はぎわら ささきけまえ はちまんじんじゃ  
 は大野から真っすぐ萩原の佐々木家前を八幡神社へ  
 と行く。



## 7 かたなかみさま 刀神様

かたなかみさま おおの にしおしょういち そせん さじえ  
 刀神様のいわれは大野の西尾庄市さんの祖先（佐次右  
 もん えなじんじゃ じんかん とろじ  
 衛門）が恵那神社の神官をしていたときのこと、当時、  
 えなじんじゃ いしんとう いえ あず かなた どうぼう  
 恵那神社のご神刀を家で預っていましたが、その刀を泥棒  
 ぬす まれてしまい、それからさいなん たつづ お  
 に盗まれてしまい、それから災難が立て続けて起きたので、  
 かみさま いか しず やしろ た ぼくとう そな はじ  
 神様の怒りを鎮めるため、社を立て木刀を供えたのが始ま  
 りです。

げんざい にしお まいにち まい ほか  
 現在でも西尾さんが毎日お参りされていますが、他にも  
 ぼくとう そな ひと ぼくとう そな  
 木刀をお供えする人はいるようです。また、木刀を供える  
 はいた なお い  
 と歯痛が治るとも言われています。

うしろ た ひのき あぎ いちばんおお ひのき  
 後ろに立っている檜は阿木で一番大きな檜です。



## 8 ささきけ せんぞ まつ どう 佐々木家の先祖を祭るお堂

むかし とち かいたく いちそく たんけつ ほか きやうつう  
 昔は、土地を開拓すると一族の団結を図るため共通の  
 しんこう も ひと いま った  
 信仰を持った。その一つを今に伝えているものであ  
 る。立派な仏像が安置されている。





9

てんばくさんやま かみじんじゃ ひろおかようはいどう  
天爆山山の神神社 広岡遥拝堂

えなさん ちようじよう えなじんじゃ まい き ひとびと  
恵那山の頂上にある恵那神社へお参りに来た人々が  
じんじゃ じんじゃ ひろおかようはい  
神社まではあまりにも遠くて行けないので、広岡遥  
堂としてここでおが ちあらじんじゃ おおのぼちぎん  
拝堂としてここで拝んでいました。血洗神社や大野八幡  
じんじゃ ようはいどう  
神社も遥拝堂だったといわれている。  
ささきけ せんぞ まつ どう ちか  
佐々木家の先祖を祭るお堂の近くにある



10

おおの せきぶつぐん  
大野の石仏群

い つた くわばらざんだいせんじ てんだいしゆう  
言い伝えでは、かつて桑原山大仙寺といわれる天台宗のお  
寺があったという。いっせつ おおのせきぶつぐん だいせんじ  
一説では大野石仏群は大仙寺がここに  
建っていたことを証明するものではないかといわれていま  
す。だいせんじ こうぼうさま ひちふくじん やくしよらい  
大仙寺には弘法様と七福神と薬師如来がまつられてい  
たが、その後弘法様と七福神は北側クラブに、薬師如来は  
ごこうぼうさま ひちふくじん きたがわ やくしよらい  
大野組集会所にそれぞれ移され現在もまつられています。  
おおのくみしゆうかいじょ うつ げんざい  
ここに三面馬頭観音は大変珍しい地蔵です。  
さんめんばとうくわんおん たいへんめずら



11

いとうきん う えもん おきなきねんひ  
伊藤金右衛門翁記念碑

いとうきん う えもん おおのむら しゅっしん しようや であらこや ししよく  
伊藤金右衛門は、大野村の出身で庄屋・寺子屋の師匠  
などをしていた。ようさん しどう のうか しゆうゆう  
養蚕などの指導をされ、農家の収入  
を増やすための指導をされた。  
ふ しどう



12

おおのごうくら  
大野郷蔵

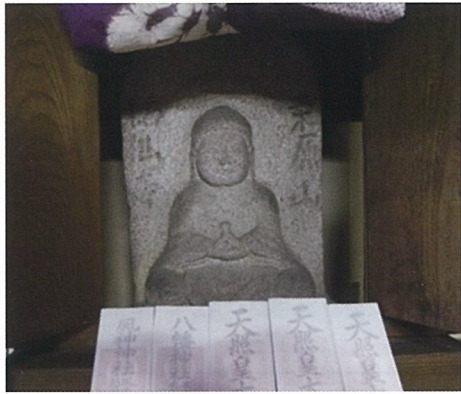
えどじだい むらむら せつち きようどう そうこ ねんぐまい  
江戸時代、村々に設置された共同の倉庫。年貢米の  
いちじてき ほかんぐら  
一時的な保管蔵。  
さら むらぜんたい びちくまい ちよぞうこ りよう  
更には、村全体の備蓄米の貯蔵庫としても利用され  
た。(右端の灯籠には、安政4年=1858年の年号有)  
みぎはし どうろう あんせい ねん ねん ねんごうあり



13

いし  
石かまど

おおのほちまんじんじゃ けいだい じんじゃ ゆ  
大野八幡神社の境内にあるこのかまどは、神社のお湯  
立て用です。6つも並んでいるのは、かなりめずら  
しい。  
ゆだ まつ まつ とき ゆ  
湯立てというのは、お祭りの時、このかまどで湯をわ  
かし、じんぐう ささき は ゆ きんばいしや  
神宮が笹の葉を湯にひたし、参拝者にふりかけ  
る儀式のこと。あぎ かくちいき あき まつ  
阿木の各地域では、秋の祭りを「おい  
だて」というがこの湯立てがなまったもの。  
ゆだ



## 14 おおの やくしによらいぞう 大野の薬師如来像

言い伝えでは、かつて桑原山大仙寺といわれる天台宗のお寺があったという。大仙寺には弘法様と七福神と薬師如来がまつられていたが、その後薬師如来は大野組集会所にうつされ現在もまつられています。薬師如来とは、薬の仏様で、病気を治し長寿を授ける力を持つといわれています。



## 15 おおのはちまんじんじゃ 大野八幡神社

この神社は阿木で一番古い神社の阿木明神ではないかといわれている。元亀2年の大雨で山津波がおき、神社の建物ごと流されてしまい古い記録もなくなっていました。その後元亀3年に建てなおされました。ここには菅田別命(応神天皇)のほか、神明神社や金刀比羅神社など8つの神様を祀っています。またここにはお湯立て用の石籠があり6つもあるのは、大きな祭りが行われていたと思われるます。



## 16 しょうぼう 消防コミュニティー

平成15年12月に建設された。消防車が2台配置されている。



## 17 ひろおかぶんこうあと 広岡分校跡

明治17年から、昭和39年3月までの79年間、広岡地区(中組より上)と飯沼新田地区の2年生までが通っていた学校があった。今は、石垣と井戸の跡が当時の面影を残すのみとなった。



18

おおのこりんとうぐん  
大野五輪塔群

明治中期ごろに、大野の伊藤源助さんが自分の土地に在ったものを一個所に集めたものといわれています。五輪塔とは供養塔であり、上のパーツから順番に空・風・火・水・地の5つのパーツでできています。これは宇宙が空・風・火・水・大地の5つの物から成り立っていることをあらわしているのです。



19

ぎょうじゃさま  
行者様

行者様とは修行をつんだ修験者のことです。ご祈禱（お祈りのこと）や占いを得意としていましたが、ほかにも医療や農業などの知識も持っていたので、尊敬されました。

ここには2体の石仏があり、1体は役行者、もう1体は実利行者（実利行者は坂下の人）です。広岡には、ここ大野地区と牧野地区の2箇所に行者様がまつられています。



20

さいがいふつきゅう きねん ひ  
災害復旧記念碑

昭和58年9月28日に松沢川の氾濫が起こった。これにより、伊藤邦彦さん宅が土砂に埋まるなど被害が出た。

この災害の復旧を記念して建てられた記念碑である。広岡は、昔から、度々大洪水に襲われている。



21

きたがわ こうぼうさま しちふくじん  
北側クラブの弘法様と七福神

桑原山大仙寺といわれる天台宗のお寺があり、ここには、弘法様と七福神と薬師如来がまつられていたが、その後弘法様と七福神が北側クラブに移され、まつられています。弘法様とは空海のことです。空海は真言宗を開きました。またこのように弘法様をまつっている所を弘法堂といい、弘法様は地区の集会所などにまつられています。



22

ばとんかんのん  
馬頭観音

と き し せんらん の が あ ぎ き の  
土岐氏が戦乱を逃れて阿木まで来たとき、乗っていた  
う ま し う こくどう ごうせん すぎ  
馬が死んだのでここに埋めた。国道363号線の杉の  
した た こうさく  
下にある。ここの田を耕作するとたたといわれている。



23

と き みょうじん  
土岐明神

と き ぐん さいとうどうざん せ らくじょう じょうちゆう せつぷく  
土岐郡が斉藤道山に攻められ落城、城中にて切腹した  
いちもん くび どうざん わた と き う えもんよりつね らんぐん  
一門の首を道山に渡すまいと、土岐右衛門頼常が乱軍  
なか き ぬ さんちゆう よ かく が いち  
の中を切り抜け、「この山中こそ善き隠れ家なり」と一  
もん くび か そう こつぽ どちゆう おさ と  
門の首を火葬し、骨壺を土中に納め、その後、この土  
ち あ ぎ す つ と き う えもん の よ  
地（阿木）に住み着きました。土岐右衛門もこの世を  
さ いちぞく ふんぼ まいそう ふんぼ と き みょうじん  
去り、一族の墳墓に埋葬され、その墳墓を土岐明神と  
いいます。

しゆうへん と ち う えもんだいら よ と き みょうじん うしろ  
この周辺の土地を「右衛門平」と呼び土岐明神の後の  
やま と き が みね い  
山を土岐ヶ峰と言います。



24

びょうぶいわ  
屏風岩

さん かみさま いわかげ やす  
お産をされた神様がこの岩陰で休まれたといわれて  
いる。ここは「あんき」だといわれ、このことから「あ  
んき」あ ぎ よ かた はじ  
「阿木の呼び方が始まり、それが・「安気」・「安  
ぎ あ ぎ あ ぎ  
岐」・「安木」・「阿木」と変わってきたといわれている。  
いちばんふる いぶんけん けい ならくごう あ ぎ つか  
一番古い文献にある恵奈六郷では「安岐」が使われて  
いる。



25

かみづか  
髪塚

むかし かみさま おさん こども うぶげ おさ  
その昔、ある神様が御産され、子供の産毛を納めてあ  
いしつか  
るといわれる石塚





26

ちあらい いけ  
血洗の池

こくどう 363号沿いに石碑が建つ、この池については、  
あまてらすおおかみたんじょう せつ いけ えな あら  
天照大神誕生の折、この池で胞衣を洗われ、その胞衣  
えなさん おさ つた えなさん  
は恵那山に納められたと伝えられる。ここから恵那山  
ちめい おこ  
の地名が起ったといわれている。  
おお いけ やまつ なみ う  
大きな池であったが山津波で埋まってしまった。



27

ちらいじんじゃ  
血洗神社

むかし かみさま さん からだ きよ  
昔、神様がお産をされ、そのとき体を清められたとい  
われる神社。恵那神社と関係が深く、色々な伝説が残  
っている。  
じんじゃ えな じんじゃ かんけい ふか いろいろ でんせつ のこ



28

りゅうせんじ あと  
龍泉寺の跡

1575年 武田勝頼に攻められ焼かれた寺院。  
この時、大根木の長楽寺も一緒に焼かれました。  
とき おおねぎ ちようらくじ いっしょ や  
攻められた時、お寺の鐘を井戸に放りこんだという話  
せ とき てら かね いど ぼう はなし  
が残っている。  
のこ



29

りゅうせん じ かいどういりぐち  
龍泉寺街道入口

りゅうせん じ やまの た じようこういん はじ りようでんでら とお  
龍泉寺は、山野田の常光院から始まり両伝寺を通  
しもひろおか いずみのうえん よこ とお  
り下広岡、泉農園のハウスの横を通っていた。  
このころの道は、山沿いにあり、できるだけ田を減ら  
さなないように考えられていた。  
かんが



### 30 かがだい 駕籠台

とのさま やくにん あぎ みまわ さい の かが お  
殿様や役人が阿木の見回りの際、乗った駕籠を置くた  
だい りゅうせんじ みちぞ  
めの台で龍泉寺道沿いにあった。

いま なに ちめい のこ  
今は、何もないが地名として残っている。

とのさま とお みち ち いきぜんたい みわた ところ とお  
殿様の通る道は、地域全体が見渡せる所を通過して  
た。



### 31 いっしんぎょうじゃ 一心行者

しょうわじゅうおんだい さ さ き いっしん しもひろおか き そ おんたけさんしんこう  
昭和十年代、佐々木一心が下広岡に木曾御嶽山信仰の  
きょうかい た ぶ きょう つと ひとよ いっしんぎょう  
教会を建てて布教に努められた。人呼んで「一心行  
じゃ い  
者」と云う。



### 32 まきの どうろう かせ 牧野の灯笼の傘

どうろう かせ いし めいじじだい もの  
この灯笼の傘の石は明治時代の物といわれています。  
とうじ まきの くだ ところ のうちちく ひごら  
当時、この牧野から下った所にある野内地区では日頃  
みずふそく かじ お しんばい  
から水不足のため火事が起きる心配があったそうで  
す。そこで野内の人達は、今の小学校の裏手にある秋  
ばさか おお いしとうとう た かじ まも  
葉坂に大きな石灯笼を建て火事からの守りにしよう  
としました。この大石は広岡の清水地区からここまで  
はこ けいかくちゅうし かたち  
運ばれてきたが、やがて計画中止されこのような形で  
のこ  
残っています。



### 33 ひろおかのうさんか こう 広岡農産加工センター

こくどう ごうぞ か こうじょう ひろおから いま う つ  
国道363号沿いにある加工場。広岡地域で受け継い  
ぎじゆつ こくさんげんりょう しょう わてん か てんねんじょうぞう みそ  
だ技術で、国産原料を使用して無添加天然醸造で味噌  
しょうゆ せいぞう  
や醤油を製造している。

# 広岡の秋の風景

